

地球ひろば

ともに つくる ぼくらの未来

協力: JICA (ジャイカ)
https://www.jica.go.jp/hiroba/

ラオス②



- 国名 ラオス人民民主共和国
- 面積 24万平方キロ
- 人口 約649万人(2015年、ラオス統計局)
- 民族 ラオ族(全人口の約半数以上)を含む計49民族
- 宗教 仏教
- 時差 2時間(日本が進んでいる)
- ラオス援助重点課題 経済・社会インフラ整備、農業の発展と森林の保全、教育環境の整備と人材育成、保健医療サービスの改善

よりよい教科書をラオスの人と

齋藤さんの仕事は?

ラオスの教育スポーツ省教育科学研究所で、算数の小学生向け教科書と先生用の指導書を作るお手伝いをしています。教科書を作るための研修会に参加して、算数の教え方や手作りの教材についてラオスの先生たちと話し合ったりもします。



お試し版の算数教科書を手にする1年生
数のブロックの代わりにペットボトルのキャップを動かして勉強

算数教育のJICA専門家: 齋藤健二さん



ラオスの地方の小学校で算数の授業をする齋藤さん

小・中学校の教師として勤めた経験を生かしてJICAボランティアとして活動した後、算数教育などのJICA専門家としてザンビア、バングラデシュ、エジプトで活動。ラオスでは2016年2月から、穏やかで心優しい現地の人々に囲まれながら「初等教育における算数学習改善プロジェクト」の専門家として働いています。休日にはラオスの若者たちにギターを教えたり、ラオスの人から伝統の踊りを教わったりして交流を深めています。

貧しくても一生懸命

ラオスは東南アジアの中でも経済的に貧しい国の一つです。教育にあてる国のお金が不足して、教室や先生が足りず、1クラスに児童が60人もいたり、1人の先生が2学年とか3学年を同時に教えたりすることもあります。教科書は、日本とは違い学校から借りて使います。また、先生が使う教材や道具もあまりそろっていません。それでも子どもたちは、仲良く協力しながら一生懸命に勉強しています。

ラオスの子どもたちのいいところは優しくて礼儀正しいところです。あいさつやお礼を言う時は、胸の前で両手を合わせます。

ラオスについて学びながら

世界中にさまざまな教科書がある中で、皆さんの使う日本の教科書は最も優れたものの一つだと思います。一人一人がじっくり考えて算数の力を高められるように工夫されているのです。でも、だからといって日本



始業のあいさつも両手を合わせて

の教科書をラオス語に翻訳して「ポンツ」と渡したとしても、うまくいかないでしょう。ラオスには日本とは異なるラオスならではの文化や環境、ものの考え方があるからです。

ですから私たち専門家にとって、ラオスの学校を数多く訪問して子どもたちや先生方の様子をよく知り、たくさん語り合っただけでラオスの学校について学ぶことが大切な仕事です。その上で、ラオスの人たちと算数に対する考え方や教え方をじっくり話し合い、ラオスと日本、両方のよさを兼ね備えた教科書を、力を合わせて作っています。

はじめようSDGs

調べてみよう 考えてみよう



Q1 世界中で小学校に通う年齢の子どものうち、学校に行くことができない子どもは何人くらいいるのだろう。なぜ、学校に通うことができないのだろう。調べてみよう。

Q2 もし学校がなかったら、どんな不安があるだろう。考えてみよう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

17の持続可能な開発目標 SDGs

(Sustainable Development Goals)

2015年に国連の場で加盟国が決めた30年までの世界の目標です。



SDG4では、誰もが一生学び続けられるようにすることを目指しています。

4 質の高い教育をみんなに



SDGsの「土台」に

す。すべての子どもが、基本的な能力を身につけるために質の高い教育を受けられるようにする。男女の差なく学べるようにする。働きがいのある仕事に就いたり、より高い技能を身につけられるようにする。人、家庭、国などの状況によっても、SDG 4達成に向けた狙いはいろいろ考えられます。未来のより良い社会を築くために、「教育はすべてのSDGs達成のための土台とも言えるでしょう。質の高い教育のために、国・地域を超えたグローバルな学び合いや、協力し合う関係づくりが重要視されています。